

どい活ミーティング

～みんなで盛り上げらんばたい！～

土井首地区コミュニティ協議会

八郎岳からの眺望

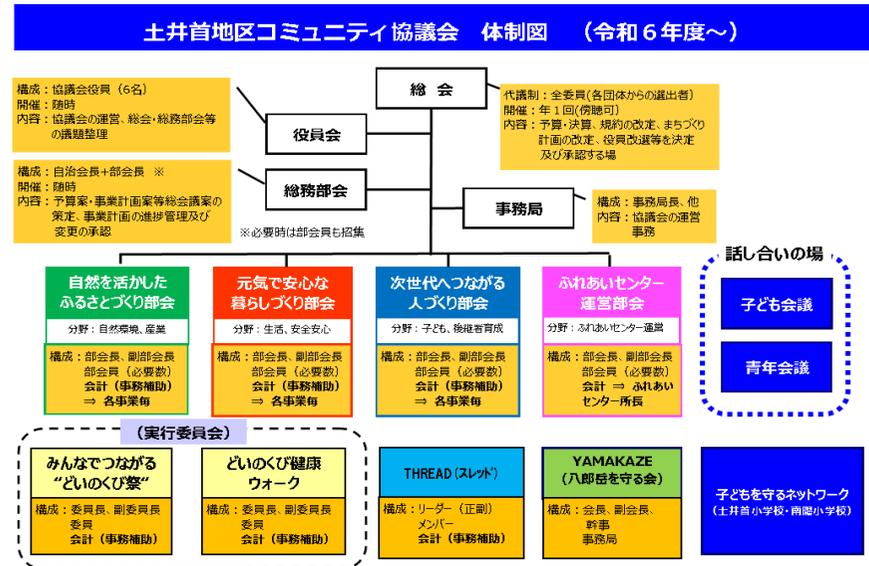
●土井首地区の概要

◆ 人口データ等 (R7.11月末時点住民基本台帳データ)

世帯数	人口				
		15歳未満	15～64歳	65歳以上	合計
6,541	人数 (人)	1,306	6,501	5,204	13,011
	構成率 (%)	10.03	49.97	40.0	100.0

◆ 20町、14自治会 (1連合自治会)

◆ 土井首中学校、土井首小学校、南陽小学校



- ・部会型
- ・拠点 土井首地域センター1階
- ・事務局長1名 事務局員2名

【加入団体】

- ・土井首地区14自治会
- ・土井首老人クラブ連合会
- ・社会福祉協議会土井首支部
- ・土井首地区民生委員児童委員協議会
- ・土井首中学校青少年育成協議会
- ・土井首中学校PTA
- ・土井首小学校育友会
- ・南陽小学校育友会

等 計32団体

●地域の特徴・課題

- ・地域のまとまりが良く、何事にも協力的である。
- ・後継者育成が課題である。

●コミュニティ協議会が行う各事業(抜粋)

①どいのくび祭

②ふるさとの川づくり(生き物観察会)

③どいのくび健康ウォーク

①どいのくび祭

R6年度より土井首中学校の生徒も登校日として参加。3年生には出店や運営にも携わってもらい好評を得ています。来場者数は約1,800人。



出店の様子



ソーランの披露





②ふるさとの川づくり(生き物観察会)

毎年恒例の鹿尾川の生きものの採取と説明。水鉄砲づくり、かき氷の提供も行った。小学生、保護者約70名参加。



③どいのくび健康ウォーク

今年度、第1回目として開催。三世代で気軽に参加できるように取り組む。約130名参加。



令和6年度からの土井首の新たな取り組み!!

どい活ミーティング

- 自治会の課題、悩みをみんなで理解、共有することで、未来に向けたまちづくりの在り方のヒントを探る目的でこれまでに3回開催。



各自治会長と各自治会から若者2、3名参加で参加。



とにかく率直に語り合おう!!

●第1回「自治会への若者の参画について」

□なぜ自治会に若者が入らないのか、入りたくないのか

- 加入のメリットが分からない。
- 子育て中、または仕事で多忙。
- 役や担当をしたくない。
- 学校行事や部活動などで自治会活動に参加できない。



□若者が目指す地域の在り方、自治会の在り方とは？

- 若者たちとコミュニケーションが持てる場を設ける。
- 共働きなど同じような環境の人の話を聞く機会を作る。
- SNSを使って発信する。有効活用。



●第2回「持続可能な地域の核(自治会)として私たちにできること」

□今よりももっと良い自治会にするために話し合う仲間を増やして、その行動に移すための計画を作ろう

- 地域ごとの話し合いでアイデアを出す。
マルシェの開催、花見会、お助け会の結成、手持ち花火大会、飲コミュニケーション……等が出ました。



●第3回「住民巻き込み大作戦」第2回目の宿題で出来た3町の活動報告

竿浦町自治会 花見会



平山台1丁目自治会 手持ち花火大会



平瀬町 夏祭り



●どい活ミーティング参加者からの感想

- ・負担を減らしていく方法を考え、実行していき、自治会員を増やしていく。
- ・同じ地域に住んでいてもお互いなかなか顔を合わせる機会が少ないのでゆっくり話せて、交流も出来て良かった。



・難しい課題ばかりで頭が痛い。なるようになるのか、自治会加入のお誘い、自治会脱退の阻止に一度チャレンジしようと思った。

・どの自治会も悩みは同じだと感じました。高校生が一名いましたが、中高大学生の参加もいいと思いました。

第3回 どい活ミーティングの様子 2025年9月28日実施



●協議会設立のきっかけ

- ・自治会、育成協などの団体はそれぞれ頑張っているが、いつも同じ顔ぶれで若い人が少ない。
- ・それぞれの団体が実施している事業を合同でやれないか。
- ・合同でやることによって役員の負担軽減と各団体の人との交流ができる。



平成29年3月 **土井首地区コミュニティ協議会の設立**

●協議会の活動を通して良くなったこと

- ・各自治会や地区内の民間を含む関係者が参加することにより「まちをこうしたい」という思いや、まちの情報を共有することができ、さらに横のつながりが強くなった。

●協議会の運営において心掛けていること

- ・無理のない、マンネリ化しない事業の計画
(事業の係を分担し、負担がかからないようにしている。)
- ・何か事業をやるときは楽しんでやる!!



●活動する上で苦労したこと

- ・自治会長の考え方に温度差があり、個性豊かでまとめるのが大変だった。
- ・女性のメンバー、男性の若者が少ない。

●それを乗り越えるために工夫したこと

- ・各自治会長にコミュニティ協議会三部会に数名推薦してもらい、活動に理解を求めた。
- ・女性メンバーが少ないので学校行事や親睦会に参加して協力をお願いした。
- ・若者に任せる、若者を頼る。

……そして何と言っても、……、……

飲みニュケーションが大事!!



●今はまだ企画段階だが、実施しようと考えている事業や、運営方法

・親子で野菜づくり体験

今年度はまず、さつまいもづくりを行いました!



・数年ぶりに子ども会議の復活

●今後の展望

どいのくび祭に中学生が「地域学習体験」として参加し、イベントの手伝い、平和ハンカチ販売などの出店をした。

これを機会に地元愛が芽生え、将来地元で活躍してくれることを期待する。





ご清聴ありがとうございました

連絡先

- 団体名 土井首地区コミュニティ協議会
- 住所 〒850-0982 長崎市柳田町45-3
土井首合同庁舎1階
- 電話番号 080-9246-7343
- メールアドレス doicomm_2020@yahoo.co.jp